

①小学6年生 英語学習意識調査（令和元年度12月実施）

(%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語の勉強が好きだ。	19.7	47.9	23.9	8.5	0.0
問2	英語の勉強は大切だ。	76.1	18.3	5.6	0.0	0.0
問3	ショートタイムの時間は英語の勉強に 役立っている。	45.1	47.9	7.0	0.0	0.0
問4	英語の授業がわかる。	31.0	59.2	9.9	0.0	0.0
問5	英語で先生や友達に質問することが できる。	31.0	46.5	19.7	2.8	0.0
問6	先生や友達の英語の質問に英語で答 えることができる。	29.6	47.9	19.7	2.8	0.0
問7	アルファベットの大文字が書ける。	98.6	1.4	0.0	0.0	0.0
問8	アルファベットの小文字が書ける。	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0
問9	副読本「Sounds Good Jump」の文を見 て、書き写すことができる。	70.4	16.9	11.3	1.4	0.0
問10	副読本の本文を声に出して読むことが できる。	35.2	33.8	25.4	4.2	1.4

②来年度に向けての指導改善の具体策(令和元年度2月実施「英語教育に関する報告書」より)

- ・英検Jrの結果は市の平均正答率並みであった。しかし、会話の内容の読み取りや、授業で行っていない内容や単語の読み取りは平均以下であった。様々な単語や会話に触れるために、コミュニケーションを行う活動（ALTとのやり取りも含む）を増やす必要がある。
- ・児童の意識調査から「もっと英語を話せるようになりたい」は99%であった。「だれかに英語で話しかけてみるがありますか」は42%であり、話せるようになりたいものの、英語で話すことに少なからず抵抗を感じている児童が多いと分かった。また、必要感をもって英語を話す機会がもてていないことも考えられる。国際理解教室や校区のALT、地域人材、留学生など本物の英語に触れる機会をもっと増やす必要がある。複数回、継続的に行える体制を整えていく。

③学校関係者評価

- ・子どもたちの「もっと英語を話せるようになりたい」という願いをかなえて欲しい。特に、英語はコミュニケーションの幅を広げるものであり、未来を生きる子どもたちの可能性を広げることにつながると思う。授業での学習はもちろんだが、実際に英語で話される外国人の方と会話する機会があると、必要感をもって学習に取り組むことができる。何より、自分の言葉が通じる喜びを味わわせてあげて欲しい。
- ・令和2年度から、授業時数が増えると聞いた。子どもたちも先生方も大変だと思う。しかし、英語の授業時数が増えることは、それだけ英語でコミュニケーションを図る力が子どもたちに必要であるという証でもある。会話することの楽しさを十分に味わい、中学校での英語教育につなげて欲しい。